

「日々の理科」(第 2321 号) 2020, 11, 19

「天体スマイル! の写真 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

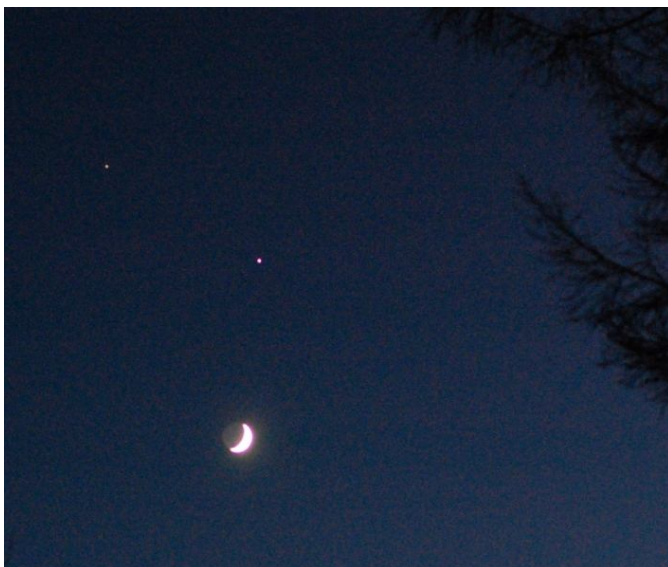
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

11月19日の夕方～夜にかけて見られた小さな天体ショー——「土星・木星・月齢5の月」が南西の空に揃い、それが「笑顔」のように見えたのだ。



大気現象の予測は、判断すべき項目が多すぎて非常に難しい。天気予報がたとえ数時間後でも100%は的中しないのはその為だ。しかし天文現象は、恐るべき正確さで予報が的中する。天体の動き——正確には地球と天体の位置関係——が極めて正確に変化し、計算通りにふるまうからだ。地球上の特定の地点で見られる10年、100年後の日食は、秒単位で予報できるし、実際にその通りに日食が起きる。「[海王星から見た天王星の日面通過](#)」は、「太陽系で最も稀な天体現象」で、次は西暦111551年8月16日に起きる。



この「愛すべき天文現象」も、計算通りに観測され

た。まだ完全には暮れぬ南西の空に、3つの天体が「スマイル」を創り出していた。(当方撮影)



スマホ内蔵のカメラの性能が上がり、明るい天体なら撮影可能になった。今回は月はもちろん、木星は-2.0等、土星は+0.6等だったので、スマホでもきれいに撮影できたのだ。上の写真は、卒業生が撮影してメールで送ってくれたものだ。「トキワ荘」の上にスマイルが浮いている、「物語的な天体写真」である。



かつてフィルムカメラで天体写真を撮っていた頃は、現像・プリントに数日かかり、それまで撮影成果がわからなかった。しかし、今は撮影直後にメールやLINEで送れる。素晴らしい時代である。この写真も友人が撮ったもので、「目と口の間」に雲があって、それがひげのように見える。実にユーモラスな写真だ。